

女人創造

太宰治

青空文庫

男と女は、ちがうものである。あたりまえではないか、と失笑し給うかも知れぬが、それでいながら、くるしくなると、わが身を女に置きかえて、さまざまの女のひとの心を推察してみたりしているのだから、あまり笑えまい。男と女はちがうものである。

それこそ、馬と火鉢ほど、ちがう。思いにふける人たちは、これに気がつくこと、はなは甚だおそい。私も、このごろ、気がついた。名前は忘れたが或る外国人のあらわしたシヨパン伝を読んでいたら、その中に小泉八雲の「男は、その一生涯に、少くとも一万回、女になる。」という奇怪な言葉が引用されていたが、そんなことはないと思う。それは、安心していい。

日本の作家で、ほんとうの女を描いているのは、秋江しゅうこうであ
ろう。秋江に出て来る女は、甚だつまらない。「へえ。」とか、
「そうねえ。」とかつぶや呟つぶやいているばかりで、思索的でないこと、お
びただし。けれども、あれは、正確なのである。謂いわば、なつ
かしい現実である。

江戸の小咄こばなしにも、あるではないか。朝、垣根越しにとなりの
庭を覗のぞき見していたら、寝巻姿のご新造が出て来て、庭の草花を
眺め、つと腕をのぼし朝顔の花一輪を摘つみ取った。ああ風流だな、
と感心して見ていたら、やがて新造は、ちんとその朝顔で鼻をか
んだ。

モオ。パスサンは、あれは、女の読むものである。私たち一向に

面白くないのは、あれには、しばしば現実の女が、そのままぬつと顔を出して来るからである。^{すこぶ}頗る、高邁でない。モオパスサンは、あれほどの男であるから、それを意識していた。自分の才能を、全人格を厭悪^{えんお}した。作品の裏のモオパスサンの憂鬱^{おうれう}と懊惱^{おうれう}は、一流である。気が狂った。そこにモオパスサンの毅然^{きぜん}たる男性^{せいせい}が在る。男は、女になれるものではない。女装することは、できる。これは、皆やっている。ドストエフスキイなど、毛牒^{けずね}まるだしの女装で、大真面目である。ストリンドベリイなども、ときどき熱演のあまり鬢^{かつら}を落して、それでも平気で^{おおわらわ}大童である。女が描けていない、ということとは、何も、その作品の決定的な不名誉ではない。女を描けないのではなくて、女を描かないので

ある。そこに理想主義の獅子しし奮迅ふんじんが在る。美しい無智が在る。私は、しばらく、この態度に拠よろうと思つてゐる。この態度は、しばしば、盲目に似ている。時には、滑稽でさえある。けれども、私は、「あらまあ、しばらく。」なぞという挨拶にはじまる女人の実体を活写し得ても、なんの感激も有難さも覚えなないのだから、仕方がないのである。私は、ひとりになつても、やはり、観念の女を描いてゆくだろう。五尺七寸の毛むくじやらの男が、大汗かいて、念写する女性であるから笑い上戸の二、三の人はきつと腹をかかえて大笑いするであろう。私自身でさえ、少し可笑おかしい。男の読者のほとんど全部が、女性的という反省に、くるしめられた経験を、お持ちであろう。けれども、そんなときには、女をあ

らためて、も一度見ることである。つくづくその女の動きを見て
いるうちに、諸君は、安心するであろう。ああ僕は、女じゃない。
女は、めいそう冥想しない。女は、号令しない。女は、創造しない。け
れども、その現実の女を、あらわに軽蔑けいべつしては、間違いである。
こんなことは、書きながら、顔が赤くなつて来て、かなわない。
まあ、やさしくしてやるんだね。

絶望は、優雅を生む。そこには、どうやら美貌のサタンが一匹
住んでいる。けれども、その辺のことは、ここで軽々しく言い切
れることがらでない。

こんな、とりとめないことを、だらだら書くつもりでは、なか
ったのである。このごろまた、小説を書きはじめて、女性を描く

のに、多少、秘法に気がついた。私には、まだ、これといって誇示できるような作品がないから、あまり大きいことは言えないが、それは、ちよつと、へんな作法である。言い出そうとして、流石さすがに、口ごもるのである。言つては、いけないことかも知れない。へんなものである。なに、まえから無意識にやっていたのを、このごろ、やつと大人になつて、それに気づいたというだけのことかも知れない。言い出せば、それは、あたりまえのことで、なあんだということになるのかも知れないが、下手に言い出して曲解され、損をするのは、いやだ。やはり、黙つていよう。「叡智えいちは悪徳である。けれども作家は、これを失つてはならぬ。」

青空文庫情報

底本：「もの思う葦」新潮文庫、新潮社

1980（昭和55）年9月25日発行

1998（平成10）年10月15日39刷

入力：蔣龍

校正：今井忠夫

2004年6月16日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.waozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランテニアの皆さんです。

女人創造

太宰治

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>